

# 基礎研 レター

欧米生保市場定点観測(毎月第二火曜日発行)

## 米国の終身個人年金

—即時開始型定額終身年金と長寿年金—

保険研究部 主任研究員 松岡 博司

(03)3512-1782 matsuoka@nli-research.co.jp

- 今回の「欧米生保市場定点観測」では、前回(4月14日)に引き続き米国個人年金市場に目を向け、増大する終身年金ニーズへの対応商品についてレポートします。米国の長寿年金の詳細につきましては、拙稿「[米国の長寿年金 — トンチン性の活用は有効な長寿リスク対策となるか](#)」をご参照ください。<sup>1</sup>

### はじめに

米国ではベビーブーマー世代(1946年～1964年生まれ)の退職が本格化するにつれ、退職後の生活資金の枯渇問題への懸念が高まった。長寿化により退職後の無職期間は長期化している。終身の給付が保証される公的年金だけでは金額的に不安がある。企業年金は、かつてのような給付を保証する確定給付型ではなく、保証のない確定拠出型が中心になっている上、退職時に一時金で受け取る人が多い。在職中に蓄えた資金の自己管理と公的年金だけで長い老後を暮らしていくことができるだろうか。

そこで生保会社が提供する終身個人年金に注目が集まることとなるが、終身個人年金には「終身年金パズル」と称されるパラドクスがある。人々は終身個人年金の有用性を理解してはいるが、実際に購入することは極めて少ないのだ。

米国の代表的な生保マーケティング調査・教育機関であるリムラの統計によれば、個人年金の大宗を占める据置型個人年金(保険料を支払ってから年金の受け取りを開始するまでに所定の期間を設ける年金)の資産のうち、年金受け取りが開始された契約の資産は0.4%にすぎない。所定の据置期間が経過した際、多くの受取人が年金受け取りではなく一時金の形での受け取りを選択している。しかも年金の形態で受け取ろうという人でも、終身年金の形で受け取ることを選択する人はさらに少ない。

そうした状況が続いてきた米国において、ここ2年ほど、終身個人年金の販売が活況を呈している。

なお、リムラは即時開始型定額終身年金(即時開始型定額年金中の終身年金)と長寿年金(＝長期

<sup>1</sup> [http://www.nli-research.co.jp/report/nlri\\_report/2013/report130815.pdf](http://www.nli-research.co.jp/report/nlri_report/2013/report130815.pdf) 参照

間据置後開始型定額終身年金。据置型個人年金の一種）という 2 種類の定額年金を典型的な終身年金と認識している。

また、終身年金給付を受ける手段としては、この他に、変額年金や指数連動型年金に終身年金給付の支払を保証する特約を付すという手段があり、近年はこの形での販売も多い<sup>2</sup>が、今回のレポートでは、直接的な商品性として終身年金の支払いが予定されている即時開始型定額終身年金と長寿年金について報告を行うこととする。

## 1——終身年金の商品概要—即時開始型定額終身年金と長寿年金—

### 1 | 即時開始型定額終身年金(即時開始型定額年金の中の終身年金支払いタイプ)

即時開始型定額年金は、契約年度から直ちに年金支払いが開始される年金である。即時開始型定額年金には、終身年金支払いを保証するものと一定期間の年金支払いを保証するものがあるが、近年、終身年金支払を保証する契約の割合が増加してきている（2013 年には即時開始型定額年金の全販売額中 82%が終身年金保証の契約であった）。

保険料を支払ってすぐに年金を受け始める（年金原資の取り崩しが始まる）ため、一生涯にわたって年金を受け取り続けようとするれば、年金額は相対的に小さいものとなる。

### 2 | 長寿年金(長期間据置後開始型定額終身年金)

即時開始型定額年金が古くからある商品であるのに対し、長寿年金は歴史の新しい商品である。

退職時等（65 歳等）に、退職貯蓄の一部から一時払いの年金保険料を支払っておき、20 年間等の長い待ち期間（据置期間）を経過した後、超高齢（85 歳等）になってから、年金の支払いを受ける。以降、年金の支払いは終身続く。

長寿年金は、超高齢期になってからの生活資金の確保を目的とする個人年金である。年金受取開始までの間に退職時に保有していた他の資産を使い切ってしまうとしても、残る超高齢期の生涯、長寿年金により生活資金を確保することができる。

即時開始型定額終身年金とは異なり、超高齢期になるまで年金の支払いを待つことにより、受取期間中は相対的に大きな額の年金を受け取ることができる。近年、長寿年金のコンセプトが消費者に受け入れられ始め、長寿年金を提供する生保会社も増えてきている。2014 年には、401(k)等の確定拠出年金に長寿年金を組み込むことを行いやすくする税制改正等が実施された。

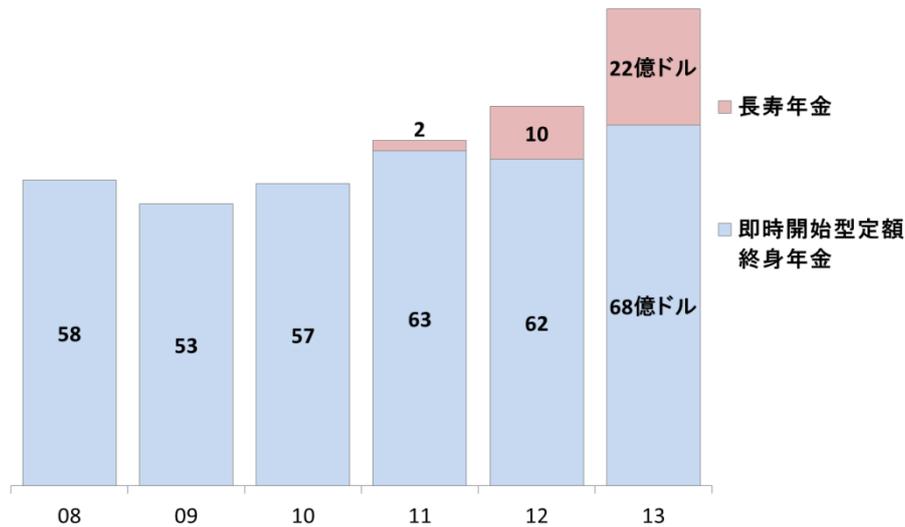
## 2——終身年金の販売近況 —生涯生活資金ニーズの高まりを受け、販売は好調—

近年、米国では終身年金ニーズが盛り上がりを見せている。

終身年金に属する 2 つの個人年金商品の販売額は、2013 年、記録的な業績を収めた（次ページのグラフ 1 を参照）。

<sup>2</sup> 拙著「欧米生保市場定点観測 米国の個人年金—変額年金の販売縮小と指数連動型年金の増大—」を参照。  
<http://www.nli-research.co.jp/report/letter/2015/letter150414.pdf>

## グラフ1 米国における終身年金販売額（収入保険料）の推移



(資料) リムラ” U.S. Individual Annuity Yearbook” より作成

即時開始型定額終身年金の販売額は2013年には対前年10.5%増と大きく伸びた。正式なデータはまだないが、2014年も成長は持続したと考えられている。

歴史の浅い長寿年金は、いまだに個人年金市場全体の中では極めて小さな存在であるが、2013年の販売額は対前年120%増と急拡大した。グラフにはないが、2014年の販売額は27億ドルであり、拡大を続けている。

リムラは、より多くの人々が退職後の生活資金源を探すようになるので、終身個人年金は成長するとし、2018年までに終身個人年金の販売額が倍増すると予測している。

### 3—終身年金の販売チャネル —チャネルの多様化が進行中—

#### 1 | 即時開始型定額年金の販売チャネル(次ページのグラフ2を参照)

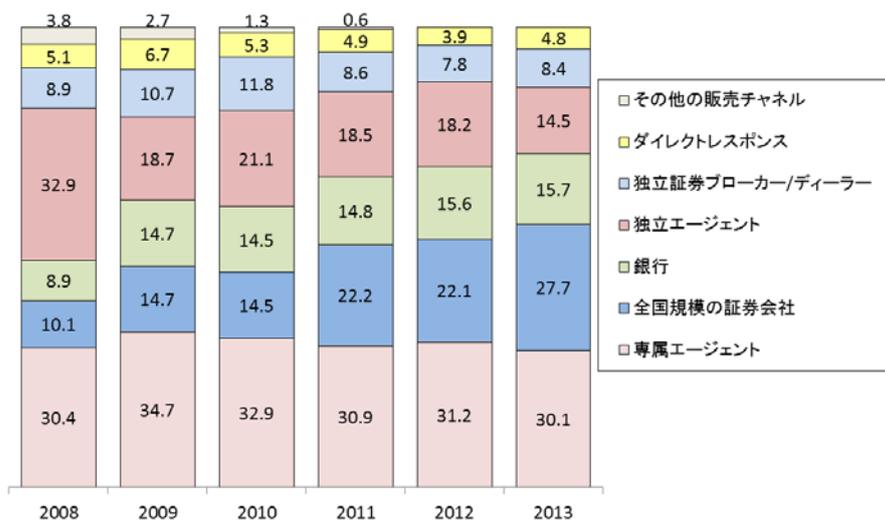
即時開始型定額年金（終身年金だけでなく一定期間の年金支払を保証するものも含む）販売におけるチャネル別シェアは、2008年と2013年では大きく変化している。2008年には複数の保険会社の保険商品を販売する「独立エージェント」が33%のシェアを有する第1位販売チャネルの座にあったが、その後「独立エージェント」が指数連動型年金の販売へ力点をシフトしたため、即時開始型定額年金販売における「独立エージェント」の2013年シェアは15%と、2008年の半分の水準に低下している。

一方、特定1社の保険商品を販売する「専属エージェント」は常に3割強のシェアを維持し、即時開始型定額年金販売の主力チャネルであり続けている。

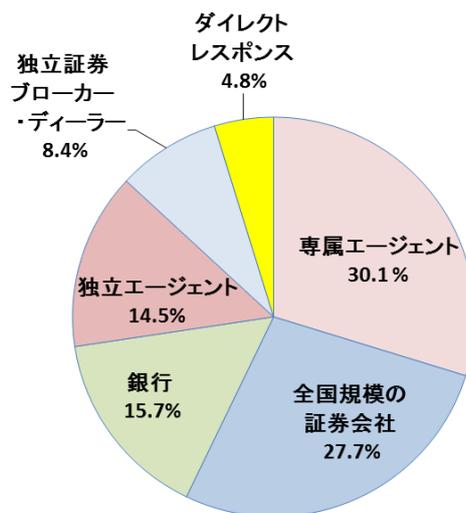
ここに2013年、「全国規模の証券会社」がシェアを27.7%へと急上昇（販売額対前年33%増）させ、「専属エージェント」に肉薄する主要チャネルとなった。

## グラフ2 即時開始型定額年金販売のチャネル別シェア(2013年)

【2008年～2013年の推移】



【2013年】

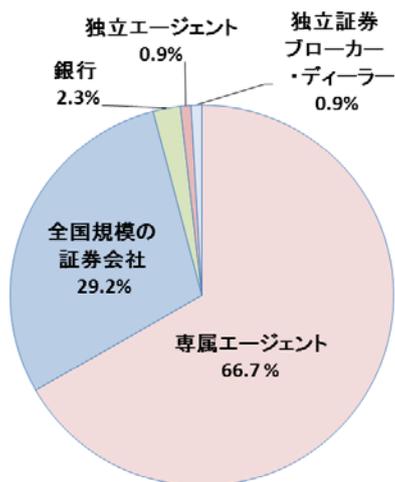


(資料) リムラ ” U.S. Individual Annuity Yearbook - 2013” より

## 2 | 長寿年金の販売チャネル

2013年には、「専属エージェント」と「全国規模の証券会社」という2大チャネルで、ほとんど全ての長寿年金が販売された。ただし2013年に5つの生保会社が長寿年金市場に参入するなど、長寿年金はマーケットの拡大が続いている新しい商品であり、販売チャネルの様相も時とともに変動すると予測されている。

## グラフ3 長寿年金販売のチャネル別シェア(2013年)



(資料) リムラ ” U.S. Individual Annuity Yearbook - 2013” より

#### 4— 終身年金事業における上位生保グループ —相互会社による積極的な取り組み—

下表は即時開始型定額年金（終身年金だけでなく一定期間の年金支払を保証するものも含む）事業および長寿年金事業における上位生保グループである。終身年金事業においては、相互会社（表中、シャドーを付した生保グループ）が積極的な活動を行っている。短期的な収益確保を目指した業務遂行が求められる株式会社とは異なる長期的なスタンスで事業に取り組める会社形態であること、相互会社には相対的に高い格付を有する会社が多いこと、が、その背景にあるものと思われる。

なお、長寿年金市場はいまだ新しい市場であるため、2013年には上位3グループだけで9割弱のシェアを有する過渡的な状況となっている。今後の変動は大きいものと予想される。

表1 終身年金事業における上位生保グループ(2013年)

即時開始型定額年金		長寿年金	
1	ニューヨークライフ	1	ニューヨークライフ
2	ネーションワイドファイナンシャル	2	マスマチュアル
3	マスマチュアル	3	ノースウエスタンマチュアル
4	プリンシパル	4	ガーディアン
5	パシフィックライフ	5	プリンシパル
6	ガーディアン	6	AIGグループ
7	メットライフ	7	メットライフ
8	ゲンウォース (Genworth Financial)	8	シメトラファイナンシャル
9	シメトラファイナンシャル	9	リンカーンファイナンシャル
10	アメリカンナショナル	10	アメリカファイナンシャルライフ
11	USAA		
12	ステートファーム		
13	AIGグループ		
14	ノースウエスタンマチュアル		
15	ノースアメリカンコフォーライフアンドヘルス		
16	ウェスタン&サウザンファイナンシャル		
17	エクイトラストライフ		
18	ウッドメンオブザワールド		
19	マチュアルオブオマハ		
20	ING		

(資料) リムラ ” U.S. Individual Annuity Yearbook - 2013” より

(注) : シャドーを付したグループは相互会社を中核会社とするグループ。

#### さいごに

以上、米国における代表的な終身個人年金である即時開始型定額終身年金と長寿年金の状況を見てきた。米国においても、個人年金市場全体における終身個人年金の割合は小さなものであるが、トレンドの最先端部分では、終身年金拡大、一般化の動きが確実に現れているように思われる。

また「はじめに」でも述べたように、変額年金、指数連動型年金に終身年金支払保証特約を付して終身年金を獲得する動きがもう一つの流れとしてあり、それなりに大きなものとなっている。こちらについても調査を継続することとしたい。